

#### 四国ブロック会議（平成26年8月5日・香川県：リーガホテルゼスト高松）

参加者は70名。台風による大雨の影響で、高知県より11名が欠席。はじめに島田博美香川県副会長の開会宣言に続き、開催県を代表して山崎博通香川県会長が、職業実践専門課程の創設に伴い、職業教育の更なる充実を祈念してあいさつを述べた。

次に、小林光俊全専各連会長が来賓あいさつとして、日本の抱える課題である少子高齢化対策、地域活性化、グローバル化をあげ、対応するには各地域で活躍できる若者の人材育成が重要になっていること、また、EU 諸国の職業教育事情に触れ、アカデミックラインとプロフェッショナルラインが高等教育段階で複線化されていることを述べた。

続いて、浜田恵造香川県知事、伊佐良士郎高松市教育局長の来賓祝辞の後、来賓の紹介、祝電の披露を行った。

その後「職業実践専門課程」制度の周知のための説明会に入り、まず、春田鳩麿文部科学省専修学校教育振興室第一係長が、教育再生実行会議の第五次提言（今後の学制等の在り方について）で、『①実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関を制度化し、高等教育における職業教育体系の確立する ②専修学校高等課程等の修学のための支援策の一層の推進、専修学校についても修学支援が図れるよう取り組む』といった職業教育の充実・強化がクローズアップされていることを取り上げ説明。また、職業実践専門課程が創設される経緯・趣旨として、中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」に基づき説明し、現在の職業実践専門課程の認定状況を述べた。

続いて、穴吹学園統合事務局 原田栄二氏が職業実践専門課程の認定校の事例発表を行った。穴吹医療大学校 医療事務・ドクター秘書学科を事例に認定要件を満たすまでの過程、認定スケジュールを解説した。職業実践専門課程は地域の業界が求める人材像に応える取り組みであり、業界が求める人材像を教育に反映することで学生の実践力と即戦力を高め、結果的に教育の質的向上へ繋がると総括した。

小憩後、春田鳩麿係長が再度登壇し、「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向について」と題して講演を行い、平成26年度の専修学校予算の概要を説明した。予算が大幅増額された「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進【拡充】」等の詳細の解説と、専修学校生への経済的支援の取り組み状況について説明を行った。

続いて全専各連事務局より、「専修学校・各種学校の現状と今後について」をテーマに、専修学校制度の施行から現在までの専修学校を取り巻く環境の変化を踏まえ、全専各連の平成26年度基本方針を報告した。また、○専修学校生の教育費負担軽減に向けた就学支援措置の要望状況 ○公共職業能力開発施設と専修学校等との調整 ○教育訓練給付金に関して説明を行った。TCE財団の各事業へのより一層の参加も呼びかけられた。

次に、各県より専修学校各種学校の現状として学校数、学生数、助成状況の行政報告が行われ、香川県においては職業体験授業の実施、職業紹介ガイドブックの作製が専修学校各種学校制度の普及啓発の具体的施策として報告された。続いて、各県連合会の代表者により活動報告が行われ、徳島県では高校生を対象に職業・資格の周知をするための職業体

験講座の実施、高知県においてはキャリア教育推進委員会の活動内容が報告された。

最後に尾上一昭徳島県会長から次期開催県あいさつに続き、山崎展宏香川県副会長が閉会の言葉を述べ、大会を終了した。その後、情報交換会が行われ、全日程が終了した。